

《講頭挨拶》

尾林 弘三

第五十回記念源立寺法華講総会を開催する事ができ皆様と共に慶び申し上げます。私は、第十五回総会で、講頭に就任させて頂き本日まで三十七年間、皆様のご協力を得て講頭を勤めさせて頂きました。本日で講頭を退任させて頂きます。

菅野ご住職は常々、日蓮大聖人の仏法を、正しく流布する為に力を尽くされており、毎月の御講講話を、皆様に解りやすく伝えるため、講話を何時でも読むことが出来るように「恵日」に掲載してくださっております。

今年の五月号には「一念三千の生命」を解説して下さっております。

私達はご住職の指導に少しでも報いるため、また何よりもご自身の向上のため努力する事をお願いして私の講頭退任の挨拶いたします。

《新講頭挨拶》

森 秀之

みなさま本日は第50回源立寺法華講総会まことにおめでとうございます。この記念総会におきまして尾林講頭から引継いで、新たに講頭の重責をお引き受けしました森秀之と申します。源立寺法華講は今日まで菅野ご住職の指導の

下、本来の正しい日蓮正宗の信仰を実践すべく、尾林講頭を先頭に精進してきたと自負しております。今後もこの正信覚醒運動の精神を風化させてはならないと改めて感じています。その法華講を引き継ぎ、まとめるには力不足だと存じますが、新たな役員さんや全法華講員の方々と異体同心して、護法の精神で一生懸命に正しい信仰を守り抜く所存であります。

私達の信仰の根本は一生成仏ですが、これが難しいことでもあります。「四条金吾殿御返事」に、「いかなる乞食とはなるとも法華經に疵をつけ給うべからず」という一節があります。一生成仏とはこれに尽きると思います。いかなる幸いや不幸が降りかかろうとも、自身の欲望を優先することなく、法華經・南無妙法蓮華經を杖とも柱とも信じて精進することに尽きるのだと存じます。

奥はつさんの話に「私は、九十を超えましたが、限界を疾く知りつつも、なお今も果てなき道の旅人となる」という歌があります。私達も本当の信仰をめざすため、この先人の生き様と覚悟の言葉を披露して、新任の挨拶にかえさせて頂きます。

尾林講頭さんには長い間、源立寺法華講を引っ張ってきていただき誠にありがとうございます。本日は本当中に代表して御礼申し上げます。

第50回記念

源立寺法華講総会

令和4年9月11日



活動方針

「生きる力 信ずる力」

諸法實相抄

行學の二道を

はげみ候へし

行學絶へなば

佛法はあるべからず

我もいたし

人をも教化候へ

行學は信心より

をくるべく候

第50回 源立寺法華講記念総会

2022年9月11日(日)

テーマ「生きる力 信ずる力」

新入講者紹介 奥井・中村 司会 佐藤・仲村

開 会 の 辞

北摂地区 橋本良介

ご 聖 訓 奉 唱

「諸法実相抄」

会 計 報 告

幹 事 西 良子

監 査 報 告

副 講 頭 松井照雄

所 感 発 表

槻木地区 森 祥平

講頭挨拶 記念品贈呈

講 頭 尾林弘三

役 員 認 証 式

新講頭抱負と方針

新 講 頭 森 秀之

来 賓 祝 辞

法華寺内 藤村道監師

来 賓 祝 辞

門真布教所 岡本昌道師

来 賓 祝 辞

恵日HPの公開 盛岡市 菅野清治氏

(休憩・体操)

記 念 講 演

源流院 坂井信登師

御 指 導

住 職 菅野憲道師

閉 会 の 辞

槻木地区 虫邊慶次

閉 会

第十回新菩提寺建立護持会

経過並び決算報告

尾林委員長

指導教師挨拶

菅野御住職

題 目 三 唱

住職挨拶

菅野憲道

源立寺法華講がここに第五十回目の記念総会を迎えることができました、同行の皆様は心より御祝い申し上げます。

当源立寺は享保年間に長柄の北畔、薬師堂村の民屋から始まります。権力者や大富豪の財力に物言わせての建立ではなく、阿波藍や雑魚場の商人、与力同心など、数は少なくとも一生成仏と広宣流布を願う純信な法華衆の外護によって法燈が受け継がれてきたものであります。

約三百年にわたる法燈護持には幾多の危機も訪れましたが、そのときどきに深信の法華衆が護惜の志を起こしてこれ乗り越えてきました。

今また、新寺建立の課題をかかえて、幾多の困難も予想されますが、何よりも宗門や創価学会が大きく変質して日蓮大聖人の仏法とは異なる個人崇拜と名聞利養の集団に堕してしまつた今日、正法正師の正法を守り、伝え、弘めて行くことこそ当法華講に求められる最優先の課題ではないでしょうか。

この正法を一筋に信ずる力を人生の原動力として、世の荒波を乗り越え、「無上宝珠 不求自得」の經文を証得したいものです。

【源立寺法華講略年表】

文禄元年 享保年間	源立寺創建(開基中納言阿日与) 大阪薬師堂村に源立寺を創す 法華講衆を本門講と称す	昭58・11・3 昭59・4・14 昭59・7・2	初の地区総会開催 岡山・倉敷研修旅行 初の役員研修開催(於能勢簡保センター)
寛政10年	この頃寿唱坊(俳号自樂)を尋ねて源立寺に文人墨客が訪れる	昭59・12・2 昭60・1・27 昭60・6・2	関西大会(万博ホール) 初の一日講習会を開催 御宮殿奉納式並第十五回総会 尾林氏講頭就任
安永7・11・12	大塩政之丞板本尊を受く	昭61・5・17 昭62・12・6 昭63・5・22	全国大会北海道研修旅行 南近畿大会(和歌山妙海寺) 全国大会(神戸ワールド記念ホール)講員三百八十名参加
明10・5・5	日霑上人御親教	昭63・12・12	広基寺御宮殿修復
明11・10・20	倉垣村に布教所開設(広基寺)	昭63・12・22	全国大会四国研修旅行
明15・8・18	久代村に布教所開設(妙宣寺)	昭63・12・22	大阪地裁判決、双方棄却
明23・10・5	滝野村に布教所開設(大蓮寺)	昭63・12・22	宗門と創価学会対立激化、翌年11月破門通告
大正〳昭和初期	この頃盛んに演説会を催す	昭63・12・22	最高裁判決、双方棄却
昭15・2・5	秦俊朋師寂、日達上人兼務	昭63・12・22	最高裁判決、双方棄却
昭17・2・23	浅井広龍師住職に就任	昭63・12・22	阪神大震災屋根瓦被災
昭33・11・13	源立講、本因妙講、久代講を解散し、法華講源立寺支部を結成。山田安次郎氏講頭就任	昭63・12・22	「恵日」創刊
昭35・5・23	高玉広応師住職に就任	昭63・12・22	宗門側修復工事差し止め提訴
昭37・2・15	本堂庫裏落慶日達上人御親教	昭63・12・22	判決直前に訴訟を取り下げ。
昭38・10・6	第一回法華講総会	昭63・12・22	源立寺修復落慶法要
昭47・4・9	第二回法華講総会	昭63・12・22	一人一誓願運動
昭48・4・7	(この頃から年度総会を開催)	昭63・12・22	なら全国大会・日蓮聖人の世
昭50・11・18	山田講頭退任古江正義氏講頭	昭63・12・22	横浜全国大会・慶讃法要
昭50・11・18	高玉広応師寂	昭63・12・22	成田詳道師継命新聞社に出向
昭52・12・16	向島秀浩師住職に就任	昭63・12・22	藤村道監師在勤
昭54・3・31	有志僧侶三十数名源立寺にて初会合、正信覚醒運動始まる	昭63・12・22	大谷吾道師在勤
昭54・3・31	第一回源立寺檀徒総会	昭63・12・22	「恵日」第五十回総会文集
昭54・3・31	向島秀浩師寂	昭63・12・22	第五十回記念総会
昭54・4・13	法華講連合会、池田会長に総講頭辞任勧告	昭63・12・22	
昭54・4・13	菅野憲道師住職に就任	昭63・12・22	
昭54・7・22	日達上人寂、阿部信雄師相承を自己申告(改名日頭)	昭63・12・22	
昭56・4・25	興風談所設立	昭63・12・22	
昭56・10・8	宗祖第七百遠忌奉修	昭63・12・22	
昭57・2・8	菅野住職に擯斥処分	昭63・12・22	
昭57・2・8	宗務院建物明渡しへの提訴、当方地位確認の提訴	昭63・12・22	
昭57・2・23	法華講役員連名で阿部日頭管長宛抗議文を送付	昭63・12・22	
昭57・6・7	9佐渡聖跡研修旅行	昭63・12・22	
昭57・7・22	門真布教所設立・岡本師主管	昭63・12・22	
昭58・3・13	古江講頭退任、尾林弘三氏講頭代行に就任	昭63・12・22	